

戦後始まった薬剤師国家試験の必須科目である調剤学の問題はこの『調剤指針』から出題されることが多く、全国の薬科大学の調剤学教育にもこの『調剤指針』が参考書として用いられた。さらに日本薬局方等の改正毎に、新しい調剤技術をも加え『昭和六十一年第八改訂 調剤指針』となった。

欧米には各国毎にきわめて巨冊の特長ある調剤薬剤学書があり、日本にも大冊の調剤学書があったが、現在日本では全国の開局薬局、病院薬局、薬科大学薬学部において、この二〇〇頁の小冊子が改版を重ねるとはいえ、日本調剤学を代表して三〇年となった。

(奈良佐保女学院短期大学)

## 自由民権運動にかかわった 川崎の医師たち

深瀬 泰 且

自由民権運動が国会の開設、地租の軽減、条約改正の三大要求をかかげて、近代的立憲政体の樹立と、生活の安定、民族自決権の確立を目指して立ち上がった日本最初の民主主義運動であることは、今日広く知られている。この運動は民選議院（国会）の設立を要求した明治七年から、実際に国会が開かれた明治二十三年頃まで続いた。

他の地域の民権運動が国会開設運動でスタートしたのに対して、神奈川県域の東部、いわゆる多摩三郡（多摩三郡が神奈川県を離れて東京府に編入されたのは明治二十六年のことである）と橘樹郡においては民権結社の運動が先行した。これら民権結社の結成とその運動にたざわった川崎市域の在村的活動家の医師について報告する。

一 阿部容斉は天保四年（一八三三）一月一日生まれ。父

の益斉を師として一二年にわたり後世方、外科、整骨科を学んだ。漢詩をよくし、反骨の漢詩人窪善亮や小菅揆一(号香村)との交際があった。また自由党の上田忠一郎とともに親しかった。

二 岡重孝は弘化四年(一八四七)の生まれで、岡家は重孝をもって六代をかぞえる川崎市域でもっとも古い医家である。岡家の祖東栄はもと長崎の人で緒方姓を名乗っていたが、川崎の久本村(現在の高津区)に移って岡姓となつて医を業とした。ついで初代道栄、玄栄、二代道栄、三代道栄を経て、重孝となった。東栄が没したのは享和二年(一八〇二)のことなので、川崎の地に居を移したのは宝暦から明和の頃と考えられる。

『当区医務取調書上』によると、重孝は開業後は『瘍科秘録』『産論』『産論翼』などの諸書を研究しているので、明治期をむかえてから蘭方医学にも取り組んでいることがわかる。

明治十五年十二月に結成された、井田文三を中心とする民権結社、頼母子懇談会に加わり民権運動に活躍した。明治二十年には溝口村ほか六ヶ村の戸長となり、明治三十二

年の郡制実施時には、橋樹郡議会の副議長に就任している。

三 太田道博は道一の末子で、お玉が池種痘所の設立に力をつくした東海の弟にあたる。天保八年(一八三七)の生まれ。幼いときから父に洋方医学と種痘術を学び、安政六年(一八五九)に下谷松永町の手塚良斉に入門した。良斉は手塚良仙光照の次女の婿養子で、東海、道博兄弟とは義理の従兄弟にあたる。

道博は明治四年から東京府下の柴崎村(現在の調布市)、砂川村(現在の立川市)、小川村(現在の町田市)で開業していたが、明治八年に父道一のもとに帰り、父の医業を手伝っている。この歳の三月に兄東海が病没しているので、老齡の父を助けるため溝口村(現在の高津区)に帰つたものと思われる。

自由民権運動の波が川崎にもおよび、溝の口を中心に活発な運動がみられるようになった。道博は明治十四年七月一日に設立された旧五大区親睦会に加わって民権運動に身を投じ、さらに明治十五年には頼母子懇談会に加わって、官憲のあくなき弾圧にも屈せず活躍している。明治十七年

一月六日に長尾神木の等覚院で開かれた学術演説会で、大隈重信の右腕といわれた島田三郎の演説に続いて、道博は「米価低落ノ影響ハ将ニ如何ナル結果ヲ生セントスルカ」と題して演説をしようとしたとき、二名の臨席警官より時間切れを理由に、降壇を命ぜられた。のちに板垣退助の自由党に属し、明治二十六年の神奈川県会議員選挙には、橘樹郡を地盤に三人の自由党の同士と共に立候補したが一敗地にまみれ、定員四議席はすべて改進黨の候補のために奪われた。

四 河合平蔵は天保十年（一八三九）に父健児（けんじよ）の第二子として生まれ、字を利器（としかず）といった。河合家は代々五反田村（現在の多摩区生田）の年寄役を務めていた家柄である。平蔵は安政二年、江戸本郷弓町の高崎藩医山田昌栄のもとに入門して医を修めた。九年間の修業の後、文久三年に五反田村の自宅で開業した。

維新後は医業よりも地方政治に心をひかれ、第五大区第七小区の書記、戸長と進んだ。明治十三年十二月五日に北多摩郡府中駅高安寺で開かれた武蔵六郡懇親会の発会にあたっては、仮幹事五一名の中の一人として活躍した。この

時以後、平蔵は自由民権運動家として橘樹郡下ばかりでなく、三多摩をはじめ、都築郡、久良岐郡などの民権運動家の間に広くその名が知られるようになった。翌明治十四年二月十一日の橘樹郡親睦会の結成にあたっては、幹事に選ばれている。この新睦会の会主におされたのは橘郡長の松尾豊材である。この頃の民権運動では、郡長や戸長などいろいろなレベルの行政官が中心的役割を果たしているのがみられる。

平蔵はもちろん頼母子懇談会にも加わっているし、自由黨員にもなっている。のちに生田村の村長に就任したものの、改進黨の勢力が上昇気運の当時にあつては、自由党系の平蔵は空しく孤塁を守るだけであつた。

（東京慈恵会医科大学・順天堂大学医学部）